

## ■ 石綿 (アスベスト)

当社の建物及び設備の一部には、飛散性があるとされる「吹付け石綿」と、通常状態において飛散性がない「石綿含有製品」を使用しています。

吹付け石綿は、関係法令にのっとり適切に対策工事を実施し、すべての使用箇所まで飛散防止対策を完了しています。

石綿含有製品については、定期検査や修繕工事等の機会に合わせて順次、非石綿製品への取替えを進めています。

また、建物・設備を解体する際には、法令などに基づき飛散防止措置を徹底の上、適切に解体・搬出・処理を行っています。

WEB 詳細は九州電力ホームページ  
関連・詳細情報 (P2参照) > 石綿の使用状況

### 建物及び設備における主な石綿使用状況 (2013年3月末現在)

対象	使用箇所	現状 (使用状況等)	備考 (対応状況他)
吹付け石綿	設備機器室、変圧器室等の防音材、断熱材、耐火材として一部の壁面や天井に使用	・すべての使用箇所について飛散防止対策済	・定期点検が必要な対策済の建物については、毎年状態を確認
石綿含有製品	建 材	建物の耐火ボード、床材等	・2006年8月以前に使用された建材の一部に含まれていると推定。それ以降は石綿含有製品は不使用。
	防音材	変圧器防音材 (変電・水力発電設備)	・72台
	石綿セメント管	地中線用の管路材料 (送電・配電設備)	・こう長：約180km
	保温材	発電設備 (火力・原子力設備)	・石綿含有製品残数：約3万㎡
	シール材 ジョイントシート	発電設備 (火力・原子力設備)	・石綿含有製品残数：(火力) 約35万個 (原子力) 約15万個
	緩衝材	懸垂碍子 (送電設備)	・懸垂碍子：約145万個 (碍子内部において、緩衝材として石綿含有製品を使用。碍子表面の磁器部分には不使用。)
	増粘剤	架空線用の電線 (送電設備)	・電線防食剤：こう長約94km

(注) 火力設備には内燃力発電設備を含む。

用語集を  
ご覧ください

- 石綿 (アスベスト)
- 懸垂碍子
- 架空線
- 防食グリース
- 生物多様性
- 社有林
- 水源涵養
- FSC (森林管理協議会)
- 森林管理認証
- 吸収固定
- 温室効果ガスインベントリ

## (4) 発電所等の緑地保全

生物多様性に配慮しつつ九州の豊かな自然を守り続けていくために、社有林や発電所緑地の適切な管理や、九州で絶滅が危惧される身近な植物を保護するための研究などに取り組んでいます。

### ■ 社有林の適正な管理

当社は、水力発電の安定した水源確保を目的として、阿蘇・くじゅう国立公園区域内を中心に4,447ha (ヘクタール) の社有林を適切に維持管理し、水源涵養やCO<sub>2</sub>の吸収など、森林の持つ公益的機能の維持・向上に努めています。

また、2005年3月には、適正な森林管理が行われていることを認証するFSC (森林管理協議会) の「森林管理認証」を、国内の電力会社で初めて取得しています。

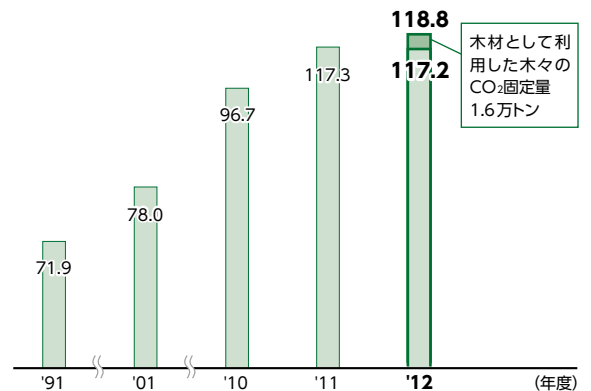


社有林 (山下池周辺 (大分県由布市))

### ■ 社有林によるCO<sub>2</sub>吸収

社有林により吸収固定されるCO<sub>2</sub>は、木材として利用するために伐採された木々が固定しているCO<sub>2</sub>量1.6万トンを差し引いても、社有林全体で117.2万トンと算定しています。

社有林によるCO<sub>2</sub>吸収固定量 単位：万トン-CO<sub>2</sub>



(注1) 森林調査に基づく実測値から日本国温室効果ガスインベントリ算定方法に基づき算定。  
(注2) '01年度までのCO<sub>2</sub>吸収固定量には樹齢15年以下の若木分は含まない。  
(注3) '11年度は社有林の材積の調査方法を変更したことにより、'10年度と比べてCO<sub>2</sub>吸収固定量が大きく増加している。